

「太鼓まつり」街中が熱気の渦に



八幡の夏の風物詩「太鼓まつり」が7月13～18日に行われ、またそれに合わせて、市内の保育園や中学校などでも太鼓まつりが行われました。屋形太鼓の担ぎ手たちは、太鼓の音に合わせて「ヨッサー、ヨッサー」と威勢のいい掛け声をあげながら町内を練り歩き、街中は熱気に包まれました。

園児らもみこしで参加

同まつりは、石清水八幡宮の摂社・高良神社の例祭で、今から約220年前に地元有志により同神社前に提灯を並べ、茶店を出したことが始まりとされています。そして約180年前(文政年間)に大きな屋形太鼓が町内ごとに作られ、太鼓を打ち鳴らしながら練り歩き姿に発展したとされています。

9日は、南ヶ丘保育園と南ヶ丘第二保育園による保育園太鼓まつり。それぞれの園の5歳児たちは、手作りのおみこしを担いで、保育園周辺を練り歩きました。園児たちのかわいらしい法被姿と元気いっぴいの「ヨッサー、ヨッサー」の掛け声に、見守る地域の人たちの顔は笑顔でいっぱいでした。

18日夜は、本家「太鼓まつり」のクライマックス「宮入」。同神社前には二区、六区の屋形太鼓2基と子ども屋形太鼓4基が集結しました。「宮入」が始まると、担ぎ手たちは待ってましたとばかりに屋形太鼓を上下左右に威勢よく揺さぶりながら、同神社前の参道を往復。その勇壮な姿に、境内に詰めかけた見物客から、大きな拍手と歓声が沸き起こりました。



◆威勢のいい掛け声をあげながら参道を練り歩く担ぎ手たち(1)
◆町内を練り歩く南ヶ丘保育園の園児たち(2)と南ヶ丘第二保育園の園児たち(3)
◆屋形太鼓を担ぐ男山中学校の生徒たち(4)

「そうだ 八幡、行こう。」

石清水八幡宮 JR東海キャンペーン神社に

石清水八幡宮がJR東海の2013年夏「そうだ 京都、行こう。」のキャンペーン神社に選ばれました。

多くの観光客に八幡市を訪れていただけるよう、7月13日から、同八幡宮ではライトアップ(午後7時～9時30分)による「夏の夜間特別拝観」を開催。八幡市駅前でも、市商工会による空き店舗を利用した「八幡ふれあい館」での物販や展示、ケーブル駅前広場での音楽イベント「歴史のまち八幡ライブコンペ」が開催されています。

同八幡宮の夜間特別拝観は、夏のライトアップとしては初めてとなります。境内の約400基にのぼる石灯籠などにLEDライトが設置され、柔らかな光に包まれた境内は、幽玄な雰囲気が漂っています。

ライトアップに友達と訪れた滋賀県在住の外村菜穂さん(23)は、「とてもきれいでした。機会があれば、八幡の他の観光地にも行ってみたいです」と笑顔で話していました。



「夏の夜間特別拝観」でライトアップされる石清水八幡宮

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

ジャガイモごろごろたくさん採れた

さくら小3年生が体験

7月12日、さくら小学校3年生の3クラス66人が、岩田の八幡農業ボランティア実習畑でジャガイモ掘りを体験しました。

この農業体験は、八幡農業ボランティアの会の支援で行われており、今回は子どもたちが3月4日に苗植えをした男爵イモの収穫をしました。

子どもたちは、クラスごとに時間を決めて、ジャガイモ掘り。畑に到着し、同

会メンバーから植物や肥料の話や、話を聞いたあと、うねに沿って横一列に並んで、ジャガイモの茎の周りの土を掘り起こしていきます。そして茎をグツと引っ張ると、土の中から丸いジャガイモが何個も連なって出てきました。それを見た子どもたちは「雪だるまみたい」と、大はしゃぎでした。子どもたちはジャガイモを2株ずつ収穫し、1株は自宅に持って帰り、もう1株は全校児童の9月の給食に使われます。ジャガイモ掘りを終えた子どもたちは「いっぴい採れた」と、とても喜んでいました。

たくさんジャガイモに笑顔の子もたち

